



辞書を通じて 自立した学習者を育てる



高橋美和

■はじめに

現在の勤務校は中高一貫校で、幸運にも中学1年生から高校1年生までの4年間、クラス担任、教科担当として持ち上がっています。高校教師の私が中学生を教えるとは夢にも思わず、重圧もありましたが、毎日が新鮮で、生徒から学ぶことが非常に多くあります。本稿では、これまでの辞書指導についての取り組みを振り返ります。

■中学生への辞書指導

中学校の検定教科書は巻末に語彙集があり、「中学生は辞書を引く習慣が身についていない」とよく言われますが、あの手この手を使って初期指導を重視してきました。好奇心旺盛なこの時期にこそ「学び方を学ぶ」ことが大事で、後の言語学習に影響を与えるからです。本校では中学1年生の5月にジュニア版辞典を生徒全員に購入させています。せっかく購入させるので、「辞書と仲良くなろう」を合言葉に、授業でも家庭でもなるべく使うように仕掛けをしました。アルファベットの導入後、6月には英和辞典で早引き競争をして盛り上がりました。8月や12月の長期休みの課題では和英辞典を利用してオリジナルスキット作成に挑戦しました。身の周りの人やものを主人公にした会話文を和英辞典の助けを借りながら作っていくのですが、独創的な楽しい作品がたくさんできます。苦手な生徒は教科書の本文に1文足すだけでもよいとしました。どの活動も仲間とのシェアを大切にし、集団で学びあう姿勢の育成を目指しました。英語の得意な生徒は、辞書を早く引

くコツとして、見開きのページの最初と最後の見出し語（左ページ左肩，右ページ右肩）に注目していることや、アルファベット順を覚えることが大事だということを教えてくれました。スキットを作った後は、仲間の作品を和訳するという課題でシェアを楽しみました。教科書の巻末リストで英単語の意味をさっと確認するよりも、辞書で周辺情報に出会うことを楽しんできました。

■待望の『ジーニアス英和辞典 第5版』

2014年12月末（中学3年生）、待ちに待った『ジーニアス英和辞典 第5版』（G5）が届きました。待ち望んでいたのは私以上に、生徒の方だったように思います。教科書等で扱う英文も長くなり、単語の難易度も上がったため、生徒から「先生、まだ辞書来ないんですか」と何度もせがまれました。本校では、ここ数年、『ジーニアス英和辞典』を購入させています。語彙数や見やすさだけでなく、語法・用例の充実がその理由です。分厚い辞典をはじめて手にしたときの、生徒のきらきらした瞳の輝きや意欲的に辞書を引く姿は今でも忘れられません。

■春休みの課題にG5活用問題集

中学3年生から高校1年生への春休みの課題として『ジーニアス英和辞典 第5版 活用問題集』に取り組みせました。この問題集はPart Iが中学英文法の復習，Part II，IIIが辞書の活用力を高める内容になっています。高校入試がない中高一貫校の本校にとって中学英文法を系統的に学習

することは困難ですが、この問題集は中学校の総復習をするのにも、辞書の使い方を再確認するのにも有効でした。特に Part II の辞書の活用では、「見出し語はアルファベット順に並んでいる」といった初歩的な内容の確認から、「動詞を型でとらえる」といったこの時期には高度な内容の紹介までが、発話レベルも意識して盛り込まれており、非常に役立ちました。この問題集への取り組みが、後の高校学習を大きく左右していると実感しています。

■G5 を利用してみよう

現在、コミュニケーション英語Ⅰと英語表現Ⅰを担当していますが、なるべくどの授業でも辞書に触れる時間を設定し、生徒とともに辞書を楽しむようにしています。授業の辞書に関するルールは「前者では毎回必ず紙の辞書を持参する」「後者では紙でも電子でもいいので、毎回必ず持参する」としており、ほぼ全員が忘れることなく持参しています。

以下は、未知語の予測を目標としたレッスンでペア活動をしたときのものです。

He was tired out from all the work he had to do. So he was ready to give up by the time he reached the fifth grade. Then his teacher said something that changed his life. "One day she told the class that if we studied, we'll go places," he says. "This made me study harder."

Genius English Communication I
Read on! 2 Teacher on Wheels より

生徒はペアで、下線部の意味を予測してから、辞書を引きます。「go を引いたほうがいいかな、place を引くべきかな」「予想した意味と同じだった」などと言って、盛り上がりました。その後、全員で place を確認すると、

go places (略式) (1) (どんどん) 成功[出世]する。

とあり、ジェスチャーを交えながら意味を確認します。辞書を引くのが遅く、熟語で引くべき単語がいつも外れてしまい、肩を落とす生徒もいますが、「英語教師の私も昔は遅かったし、外れることだっていっぱいあるよ。たくさん引いて慣れていこう」と声をかけています。

また、新出語の導入でも辞書を使うと、派生語や面白い例文に出会え、例文の主語をかえた楽しい口頭英作文活動ができます。「あ。そういうことだったのか」とか「〇〇くんが主役の例文作ってあげたよ」などのつぶやきが教室のあちこちから聞こえてくるこの瞬間が大好きです。

さらに、G5では新規要素として巻末に楽しい Picture Dictionary が入っています。描写活動の答え合わせにヘアスタイルの英語を確認したり (Picture Dictionary p.9)、体育の授業の後に様々な英語の動きを確認したり (同 p.10)、と活用しました。また、教科書に登場する遠い国の地名も Picture Dictionary の地図で確認することで、身近に感じられます。

■おわりに

最近、「辞書と仲良く」なっている生徒が急増しています。書き込みされた辞書、付箋だらけの辞書、シワだらけで箱に入らないほど膨れた辞書を誇らしげに見せてくれます。年度当初に見せた筆者の高校時代のボロボロになった英和辞典を意識しているのかもしれませんが。

デジタルネイティブの生徒にとって、紙辞書での学習はもどかしいかもしれません。しかし、紙辞書を引くことで生徒の言語意識が高まり、彼らは後に自立した学習者へとなるはずです。何度も引いて書き込みしながら世界にひとつしかない自分だけの紙辞書を作っていく喜びを、中高生には体験してほしいものです。今後も、生徒とともに辞書を楽しんで使っていきたいと思います。

(たかはし みわ・新潟県立村上中等教育学校教諭)